



令和7年3月17日、岐阜協立大学のホール及び学生会館にて、「探究の日2025」が行われました。学校外にて発表活動の催しを行う新しい試みとなりました。

大垣北高校の「総合的な探究の時間」は「SD探究」(SD: Sustainable Development)と呼ばれており、1・2年生で多様な学びを行っています。1年生は「地域の町づくりの課題を解決する」というテーマのもと、個人で自分の住む地元についてデータを集め、研究発表を行います。2年生は興味・関心に応じて自由にテーマを設定し、データサイエンスを活用しながらグループで研究を行います。

この日のプログラムは、まず1年生の代表生徒が上石津の町起こしに関する発表の後、2年生のホール発表とポスター発表を同時に行いました。生徒たちは興味のある会場へ移動し、熱心に話を聞きつつ、発表者へ質問を行う姿が各所で見られました。

全体発表では、自然科学部の長良川の水難事故防止につながる河床構造の解析についての発表と、オオサンショウウオの国産個体を守るための研究発表が行われました。(オオサンショウウオ班の発表は、第68回日本学生科学賞にて内閣総理大臣賞を受賞)

また、基調講演として、本校卒業生京都大学名誉教授 稲葉カヨ様から「免疫学者への道を振り返って」と題して講演をいただきました。免疫学だけでなく研究するの奥深さ、チャンスを見逃さず挑戦し続けることの大切さなど貴重なお話を聞くことができました。

この新しい行事はまだまだ始まったばかりですが、生徒たちの思考や挑戦したものを表現し、他者へ伝え、後輩へとつなげていく機会となることを願っています。

《 稲葉カヨ先生の講演会の感想 》

- 自分の夢がいまいち明確でないまま進んでこられたのだということに驚きました。これだけすごい賞を受賞されたのであれば、幼い頃から免疫に興味があったのかな、と思ってしまいますが、実は流れでそうなったと知って驚きました。流れに身を任せる「しなやかさ」を持ちたいです。
- 稲葉先生の話聞いて、自分も努力が足りていないと感じました。目の前にチャンスが現れたら、ためらわず挑戦することの大切さを学びました。
- 現在、教科書に載っていることを発見する立場にいらっしゃったことがとてもすごいと思った。また、チャンスをもものにするだけでなく、転がっているチャンスを見逃さない力も重要だという話が印象に残りました。
- 当時は女性の研究者がなかなかいなかったにも関わらず、自分の好きなことを究めて文化功労者にまでなっていてすごいと思った。座談会でも基調講演でも何回も好きなことが大事とおっしゃっていたので、自分も今は部活で、大学でも好きなことを研究したいと感じた。
- 自分も同じ養老町出身で〇〇ができなくても僻地だからしょうがない・・・という思考に時々陥る。しかし稲葉先生は出身に関わらず様々なことに挑戦されていてすごいと感じた！



▲基調講演の様子



▲座談会の終了後、先生を囲んで